

身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ！！

平成24年10月21日

原町中央産婦人科

院長 高橋 亨平

皆さんには本当にご心配をかけ、申し訳ありませんでした。お陰で何とか Dr を探す事の難しさや、いかに医師不足が進行しているか分かりました。知ってはいましたが、今回の原発事故と全く同じで、机上の論理では全く会わず、やはり現場の論理でなければ全く合わないことに気が付きました。

高度医療ほど1件の手術に対して多数の医師が必要となり、そして、時間もかかります。勿論、部署によっても違いますが、少ない高度医療を研修した医師、しかし、選択できる職場は極めて少ない。命をコントロールしている高度生命維持装置の技師、薬剤師、執刀医、アシスタント Dr 等、多くのスタッフ（縁の下の力持ち）によって貴重な命は寸分の違いも無く守られているのです。この領域での医師不足もひどい。そして又、かなり、重労働である。又、一次医療、二次医療に関しても、10年前とは全く違うレベルに躍進し、その分、手術時間も長く、医師の数も多く要求されます。その結果、治療状況極めて良好です。しかし、この領域の医師こそが最も足りないのが現状といえます。

そして、もっと大切な分野は、研究に関するものですが、もう既に手遅れですが、日本は世界から全く遅れ、殆どの製薬会社が研究予算も無く実験も出来ず、破産又は外資に買収されてしまいました。日本には製薬会社は数社しかありません。折角山中教授が開発したiPS細胞にかかる予算も、アメリカは日本の10倍以上、スタッフも日本の10倍以上です。アメリカには無限の資源があります。資源の無い日本は、どう生きていけばいいのでしょうか？科学立国日本としての、誇りを本気で発揮すべきです。色々現場の状況を聞いてみると、科学立国日本は悲しくなります。教育も理科系、文科系にわけるべきでなく、全ての試験に理系を常識と考え、前提とすべきです。

今回皆様に、心身共の苦しみの余り SOS を発信致しました。多岐に亘る支援の言葉、本当にありがとうございました。忙しい仕事の合間に定期的に、毎週

応援に来てくれている先生、本当に助かります。こんな医師が、未だ日本にもいるのだと思うと、心から嬉しく、未来に光を感じます。本当にありがとうございます。

Drも4人程の希望者があり、来年4月から何とか新しくスタート出来るものと思っております。その間に色々と準備する事も多く、診療科の多少の変更も考え、3診位考えなければならぬかなと考えております。その他、被曝医療、除染研究所との連携等もあり楽しい研究も沢山あります。

皆さん本当にありがとうございました。これを持って医師募集を終了させて頂きます。ありがとうございました。